



書評

[評者]

山本 亮

佐久総合病院佐久医療センター緩和ケア内科部長

緩和ケアレジデントの鉄則

西 智弘, 松本慎久, 森 雅紀,
山口 崇, 柏木秀行 編

●B5 頁250 2020年5月
定価: 本体3,800円+税
[ISBN978-4-260-04128-7] 医学書院刊



最近マニュアル本が大流行である。医学部に通う息子のアパートの本棚を見ても、教科書ではなくマニュアル本的な参考書がずらっと並んでおり、それで勉強をしているようだ。

でも私はマニュアル本が好きではない。フローチャートやリストを見て解決できることなんて、そんなにたくさんあるわけではないし、医療、特に緩和ケアの領域では、マニュアル的ではない判断を求められることも多いと思っているからだ。そんななか、医学書院から『緩和ケアレジデントの鉄則』という本が送られてきた。帯にはご丁寧に「これだけはおさえておきたいこと」を一冊にまとめました」とある。

「また流行のマニュアル本か〜」、そう思いながら本書を開いて読み始めると、マニュアル本のようにいながら、それでいて内容としては単なるマニュアルではなく、理論や考え方の道すじ、エビデンスなどもコンパクトにまとめつつ、具体的な方法や患者や家族への説明の仕方までも含められた、まさにかゆいところに手が届くものであった。

緩和ケアはけっしてマニュアル的な対応だけで実践できるものではない。しかし、自分の中にこんなときにはこのようにすれば良いという治療やケアのカードがなければもちろん対応することはできない。数枚

しかカードを持っていなくても、なんとか対応することができるかもしれない。しかしたくさんカードを持っていた、そのカードを状況に応じてうまく使っていくことができれば実践の幅は格段に広がる。緩和ケアにおけるさまざまな場面で使うことのできる自分の手持ちのカードを増やしていくことに、また既に持っているカードをより使えるカードにするために、この本はとても役に立つ一冊と感じられた。

ボリュームも多すぎず、症例ベースで記載されているため、テンポよく読み進めることができる。実際に困った時に開く一冊というよりも、当直の夜の際間時間などに読みものとして通読しておくことをお勧めしたい。特に「IV. 終末期」や「V. コミュニケーション」の部分は、あらかじめ読んでおくことで、いざというときに焦らずに、この本で手に入れたカードを使って対応することができるのではないだろうか。

マニュアル本が好きな人も私のように好きでない人も、レジデント医師も医師以外の職種の方も、ぜひこの本を手にとって読んでみていただきたい。きっと緩和ケアの現場で使うことのできる価値あるカードを何枚も手に入れることができ、自信を持って診療にあたることができるようになるであらう。